B-15 大分県における秋期のブユ採集成績

○ 斎藤一三（横浜市大・医・寄生虫），金山彰宏（横浜市衛生研究所）

Fauna of blackflies in Oita Prefecture in autumn.

Saito K. and Kanayama A.

我々は日本のブユ相について調査を進めている。今回は大分県において調査を行った成績について報告する。

調査期間は1994年10月29日から11月3日6日間である。期間中、67地点で調査を行い、60地点から既知種1属14種と未同定種を含む8,747個体が採集された。そのうち *Simulium aureohirtum* は本県からの新記録種である。

最も多く採集された種は *S. arakawae* の2,683個体で全採集数の30.8%を占めた。次いで、*S. bidentatum* の2,278個体(26.0%)、*S. quinquestriatum* (23.7%)の順であった。

最も多くの地点から採集された種は *S. arakawae* で37地点から採集された。これはブユが採集された地点の61.8%に当たる。次いで、*S. uchidai* の30地点(50.0%)、*S. bidentatum* の29地点(48.30%)、*S. aokii* の26地点(43.3%)、*S. quinquestriatum* の23地点(38.3%)の順であった。

B-16 北海道の野鳥の巣より発生するハエ類

○ 岩佐 光啓・堀 浩二（帯畜産大・昆虫）

Flies occurring from birds' nests in Hokkaido

Iwasa, M. and Hori, K.

北海道において野鳥の巣より発生するハエ類を調べ、計8科13種、69個の野鳥の巣より8科23種、4,623個体のハエ類が得られた。これらのうち、巣の雛に吸血寄生するマルヤマトリキンバエはシジュウカラ科、ムクドリ科及びハタオリドリ科の樹洞性の巣から高い頻度で発生したが、キツツキ科のアカゲラとコアカゲラからは発生しなかった。森林性のシマフクロウとクマゲラの巣からはヒメイエバエ科、イエバエ科、トゲハネバエ科の新種が見い出された。幼虫が捕食性であるイエバエ科の *Myospila meditata* と *Mydaea urbana* が鳥の巣をも利用することが判った。腐食性のハエの中でイエバエ科の *Potamia littoralis* は最も優占し、ほとんどの樹洞性野鳥の巣から発生した。非樹洞性のキジバトの巣からは最も多い12種が発生し、ハヤトビバエ科、ツヤホソバエ科及びミズアブ科などの糞食性ハエ類が多く発生した。野鳥の巣からのハエ類の発生に影響を及ぼす要因についても報告する。